

第3回安芸区まちづくり懇談会 会議要旨

1 開催日時 令和元年（2019年）11月27日 水曜日 午後1時30分～3時30分

2 開催場所 安芸区民文化センター4階 会議室A

3 出席者

(1) 委員（17人中15人出席）

ア 学識経験者

池本座長

イ 各種団体の関係者

金月副座長、金子委員、倉増委員、佐々木委員、住本委員、西井委員、西佐古委員、畠山委員、松田委員、森重委員、森本委員、門前委員

ウ その他安芸区長が必要と認める者

稲垣委員、上委員

(2) 事務局（安芸区役所）

安芸区長、副区長、厚生部長、農林建設部長、下水道担当部長、区政調整課長、地域起こし推進課長、生活課長、健康長寿課長、保健福祉課長、維持管理課長、地域起こし推進課職員

4 議題

- ・ 安芸区の魅力と活力を推進するためのアクションプラン（仮称）について

5 公開・非公開の別 公開

6 傍聴者

(1) 一般傍聴者 0名

(2) 傍聴者（報道関係） 0名

7 会議資料

(1) 議事資料

議事資料 アクションプランに掲載する主な取組項目案

当日配布資料1 アクションプランに掲載する主な取組項目案への御意見・御質問について（お願い）

当日配布資料2 安芸区まちづくり懇談会の開催スケジュール

(2) 参考資料

参考資料1 第2回安芸区まちづくり懇談会での主な意見（質問）とその対応

参考資料2 各委員から提出された提案のとりまとめ

参考資料3 アクションプランのイメージ

参考資料4 第2回安芸区まちづくり懇談会の会議要旨

8 会議要旨

次のとおり議題審議等を行った。

(1) 議事

- ・ 安芸区の魅力と活力を推進するためのアクションプラン（仮称）について

議事資料に基づき事務局（米谷地域起こし推進課長）から説明を行った。議事資料の具体的取組については、第2回まちづくり懇談会のときに依頼した「地域課題の解決に向けた取組・地域資源を活用した取組について（お願い）」により各委員から募った提案や、会議での各委員からの意見等を今回は提示し、次回に向けて事務局が内容を集約することとして、枠組については概ね了解を得た。また、議事資料についての意見や質問を、当日配布資料1により12月13日（金）までに回答していただくように依頼した。

(2) 主な質疑・意見

- ・ 安芸区の魅力と活力を推進するためのアクションプラン（仮称）について
（佐々木委員）

議事資料の欄に実施地域とあるが、提案については地域で意見をまとめたものではない。中野地区には中野まちづくり委員会という組織もあり、載せていない取組もあるがどうか。

（事務局 米谷地域起こし推進課長）

記載内容を今後はコンパクトにしていくため、団体ごとの取組ではなく、それらを網羅した総括的な形に集約する。

（事務局 山本安芸区長）

地域名を明示しないと取組内容を説明できないものについては、地域名を記載する。区で共通のものについては、区全体の取組として記載する。地域で取り組まれている特定の項目について、載せて欲しい項目があれば、意見を出していただきたい。

（住本委員）

1月頃に事務局で集約されると言われたが、どういう形で何を集約して提示するというのか。

（事務局 米谷地域起こし推進課長）

議事資料の真ん中の欄の具体的な取組をもう少し集約化してコンパクトにまとめた形にして、第4回まちづくり懇談会を開催する前に、提示し意見をいただく予定である。

（事務局 山本安芸区長）

具体的に申し上げれば、7枚ものの2枚目を御覧いただければ、中野地区において住民主体型生活支援訪問サービスに関する記述があり、その下に阿戸地区において住民主体型生活支援訪問サービスに関する記述がある。それぞれの地区でアクションプランに挙げるのではなく、これをまとめるなど簡素化を行い、1月の中旬くらいまでに各委員に提示させていただく。

（松田委員）

当日配布資料1については、議事資料に挙がっている具体的取組についてしか意見を述べられないということか。できれば、新たな取組を出したいと思っている。提案を出したときから状況が変わっているので、配慮いただきたい。

(事務局 米谷地域起こし推進課長)

提案していただいて構わない。いただいた提案の中身によっては、項目の新たな柱立ても含めて検討させていただきたい。

(池本座長)

例えば、通信においては5Gと言われる通信規格が出てきて、積極的にこれを取り込む必要が出てきたり、第5次産業革命という言葉が出るなど、社会は進んでいる。松田委員が言われたように、前回の会議の後に新たな地域の課題が出るなど、計画を作った後において、新たな課題が多々出てくるのではないかと。計画は10年スパンということであるが、細かい実施区分を設ける必要があるのではないかと。

今後は、いろんな情報が電子的に管理されるスピードはもっと高まっていくと思うので、今回の計画も紙だけではなくて、端末に合わせて入れてデータベース化を行い、社会の変化に柔軟に変えていく仕組みを、なかなか難しいところもあるだろうが考えることはできないだろうか。

(事務局 米谷地域起こし推進課長)

詳しいことはわからないが、情報手段・情報化の進捗は非常に進んでいるという認識である。区レベルのアクションプランでどう取り込むか、どう整理するかについていろんな意見を投げかけていただきたい。

(事務局 山本安芸区長)

2020年から2030年度の11年間でどこまでの熟度で皆さんと作り上げたアクションプランをどのように進行管理していくかということであると思う。例えば、コミュニティ交流協議会の場で、全体ではないにしても主なものを取り上げて、進捗状況を報告させていただいて、計画をブラッシュアップできるのではないかと。

話は違ってもかもしれないが、市の基本計画の方では、持続可能な開発目標、SDGsが17項目あるが、どれに該当するかを表示している。アクションプランにおける取扱はまだ決めていないが、そういった表示もできるのではないかと考えている。

(池本座長)

国連レベルの課題がいくつ該当するかがわかる仕組みになっているので、安芸区版SDGsをぜひ、検討していただきたい。

(住本委員)

参考資料3にある身近な課題で、町内会の加入率の低下について触れているが、まさにそのとおりであると思うが、どのように対応するのか。

(事務局 米谷地域起こし推進課長)

もちろん、行政が強制的に加入させるということではできないので、ホームページなどで加入のメリットをお知らせしている。そういった促進策を図るということで、アクションプランにどのように反映させるかは事務局で検討したい。

(事務局 山本安芸区長)

町内会の加入率の低下について、単に加入率を上げるかというだけの話ではなくて、例えば、この取組項目の中でも日常の困り事に対する活動拠点づくりであるとか、世代間を超えた交流であるとか、こういったいろんな取組をやることにより、その地域のコミュニティの活性化につながる

がると思う。町内会の加入率については、大命題という認識で取り組んでいるものの、現状を踏まえれば、総合的に考えていく必要がある。そういった意味では、アクションプランにおいては、取組項目のなかに散りばめられていると理解していただければと思う。

(池本座長)

地域コミュニティにおいては、いわゆる血縁ではなく、地縁でもない新たなつながり方として、具体的にボランティア団体とか、何か任意的なNPO法人とかそういった各種団体が各地域に展開している。団体に加入して、そこで町内会の活動をサポートするとか、そういった具体的な関わり方をしたり、それを積極的に進めているところもあったりする。

安芸区らしい、安芸区の地域の団体にふさわしい協力の仕組というか、そういったことを考えていくこともできるのではないかと思うので、具体的な関わり方、安芸区らしい関わり方も考えることができないだろうか。

(倉増委員)

個人的には、やはり行政が所帯数に対して、お金ではないかもしれないが、例えば年間500円を所帯数に応じて地区に出してもらい、対象地区の人全員が町内会の会員と認定するよう調整してもらえたら、すごくいい町内会ができると思う。現在は任意であり会費を納入した人が町内会に加入している状況であり、市長さんから隣組を大事にして、隣の身体障害者の人を避難のときに介助しなさいと言われるが、挨拶もしない、町内会にも入らないあの人をなぜ助けなければならないのかという声もある。

(事務局 米谷地域起こし推進課長)

既存の枠組でやるというのも当然重要であるものの、少し視点を変えて、地縁的なものではない視点から、その地域ではなくて同じ目的を持った人などという新たな視点も考慮していきながら、検討させていただきたい。

(池本座長)

新しい動きもある感じがするし、特に災害のときに、そういった形が見えたのではないかな。

(池本座長)

安芸区は海田町に隣接しており、実際に生活している人でさえどこが境界を実感することがなく、連携事業は重要と考える。海田市駅の高架化が決まったが、ガード下の利用については共同の取組で何かできないだろうか。駅の再整備もあるなどいろいろな動きもあり、連携の取組においては、そういう新しい動きを踏まえた取組を組み込む必要がある。

また、昔からの西国街道の海田市宿と一貫田宿をつなぐ取組もできるのではないかな。縄文時代の遺跡、戦国時代の城跡など安芸区らしい歴史的な遺跡が数多くあり、歴史的に重要な位置にあった。線だけでなく重層的なまちづくりを行うことができないかな。

また、参考資料3の8ページに進行管理のことが記載されているが、もう少し具体的な文面にすべきだ。広島市の観光分野では、DMOを立ち上げ、広島市の各種団体が参加している。任意団体、まちづくり団体を、今これまでつくった各種団体の合議体とした推進体制が必要なのではと思うが、どうであるか。

(事務局 米谷地域起こし推進課長)

まず、今回のアクションプランでは、基本的にはソフト事業ということになるが、高架化

といったハード事業など新たな大きな動きがあったら、そうした大きい動きに対して付随して生じる高架下等の新たな空間など地域資源を有効活用するという視点も非常に重要である。アクションプランの事業ではない他の事業の関連において、それを踏まえたソフト事業の展開としても重要な視点であるので、当然考慮させていただきたい

次に、西国街道について言及されたが、歴史資源として非常に重要な要素だという認識しており、ブラッシュアップしていきたい。

最後に、計画の推進について御意見があったが、住民主体、そういったコミュニティ施設の核となる方が構成メンバーとなっている安芸区コミュニティ交流協議会は重要な組織という位置づけをしていることを前提に、参考資料3の8ページに記載させていただいている。先ほどの情報化とか、このグローバルで新しい時代の動きに対応していくために、そういった推進組織もやはり既存の組織だけではなくて、新しい組織をも考慮していく必要はあると思うので、検討させていただきたい。

(事務局 山本安芸区長)

座長が言及された駅の高架下とかバイパスの下というのは、本来はハードであるが、その下の利用というのは、ソフト事業が絡んでくる。例えば、子どもの遊び場であるとか、いろいろなことが可能だろうと思うし、今言われたような視点をこのアクションプランの中で、取組項目としてちょっと盛り込んでいくのも面白いかなと思うので、検討させてもらう。

災害を受けたところが復旧したあと、新しい形で西国街道がまた見えてくるということになると思うので、歴史的な資源をどう活用していくのかは、やる・するということではなくて、検討というような言葉も入れてこのプランの中に盛り込むことは可能であるので、検討したい。

最後の推進体制については、エリアマネジメントや協同労働という手法を活用するよう指示されており、座長が言及されたことについても検討したい。

(金月副座長)

先ほど住本委員からあった、町内会加入率の件については、連合町内会連絡協議会でも議題に挙げて協議していきたい。

今回のアクションプランについては、これで結構だと思うのですが、先ほど話が出ているように、いくらかハードの面についても盛り込むことができればいいと思う。

(事務局 米谷地域起こし推進課長)

今、副座長からありましたハードの部分の記載については、基本、このアクションプランでは、ソフト事業が中心になっているが、そういうハードのものについても、どのように整理するか検討させていただきたい。

(池本座長)

時間の都合上、その他御意見があれば、本日本配布された当日配布資料1に記入の上、事務局まで提出して欲しい。今回の議事は終了する。